

(1)児童の体力の現状

○男子の50m走、ソフトボール投げ、女子の長座体前屈は、昨年度に続き多くの学年で県や市の平均を上回った。
●男女ともに、シャトルランは県平均を下回った。
●男子の長座体前屈は県平均を1～7ポイント下回り、女子は長座体前屈を除くとほとんどが県平均を下回っている。男女の体力・運動能力に大きな差がある。
●1年生、2年生は、16項目中13項目が県平均を下回った。

○5、6年生男子はいずれも8項目中7項目が県平均を上回った。
○意識調査を見ると、5年生は「運動が好き」「自主的に運動したい」という児童が多い。また、授業で「助け合う活動を行っている」「話し合う活動を行っている」と肯定的に回答した児童は男子に比べて女子の数値が高い。一方で、「授業以外で自主的に運動したい」と考える女子は少ない。授業以外で積極的には活動しないものの、授業で助け合いながら活動することに体育の楽しさを見いだしている女子が多いことがうかがえる。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

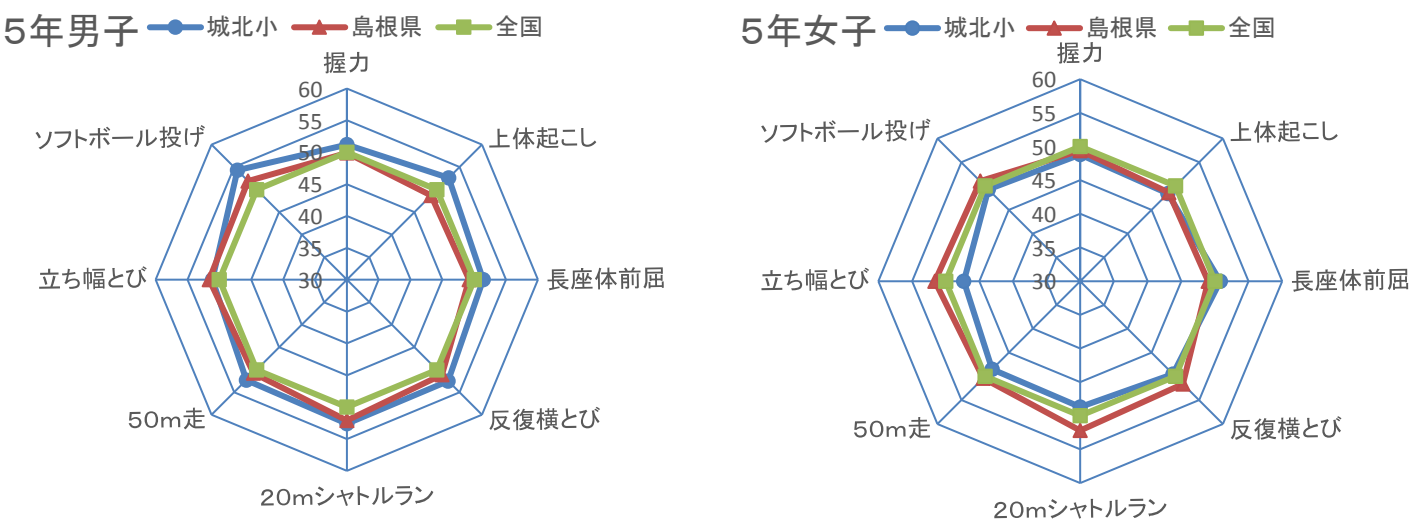
○ロング昼休みを利用して、縦割りで体を動かす機会を体育委員会の企画で実施できた(体育フェスティバル)。リレー、ドッジボール、長縄など、楽しみながら体を動かすきっかけになった。
○長縄や短縄、しせい体操などの音源の入ったメディアプレーヤー、CDを各教室に常設し、雨の日でも教室で子どもたちが主体的に体を動かす機会を増やすことができた。
○体育の授業は、学年の実態や単元の内容に合わせて、学年体育でも学級体育でも取り組めるように体育館や校庭の使用割り当てを組んだ。学年体育では人数は多いが、複数の教員で目が行き届くという良さがあつた。学級体育では、2クラスで行うと複数の教員で指導ができた。1クラスであれば少人数で個々の技能にあわせたり運動量を増やしたりといったことが可能になった。「子どもたちのここを鍛えたい」というねらいをはっきりさせて取り組むことにつながった。
●体幹を鍛えるため、朝の時間にしせい体操を取り入れてもらうように呼びかけた。全校体制での取り組みにもつなげていきたい。
●昨年度から配布している『城北の体育(決まりごと)』の服装や集合の仕方、ボールや施設の使い方などのルールについては引き続き、委員会活動の取組とも連携しながら進めていきたい。

(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
- ・ロング昼休みを利用した体育委員会の体育フェスティバル、3学期の縄跳び集会はねらいを明確にし次年度も継続する。
 - ・音源の入ったメディアプレーヤーの活用は続け、しせい体操など「かしこい体づくり」を目指して全校体制で取り組める日常的な活動を取り入れる。
 - ・校庭や体育館、器具庫の整備を進めるとともに、全教職員で『城北の体育』で示された約束を再確認して次年度をスタートする。
 - ・体力の現状を分析した上で、ねらいを明確にし、一人一人が目標をもって取り組める、「できるわかる授業」に向けて、授業改善を進める。
- ②地域や家庭との連携による取組
- ・PTA総会、学校保健委員会などで、児童の体力の現状や体力づくりについて情報発信をしていく。
 - ・地域講師による、クラブ活動での専門的な指導をお願いする。(ゲートボール、3B体操など)
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
- ・「食」について、養護教諭や栄養教諭、そして家庭と連携を図る。学校での食育の学習の機会を捉えて、家庭へ向けて「食」について啓発をしていく。
 - ・正しい生活習慣の確立のために、全学年、年間1回以上のメディア学習を実施していく。
 - ・生活習慣を見直すため、メディアコントロールカードを活用する。

調査実施者数(人) 1年(男子45・女子34) 2年(男子53・女子32) 3年(男子36・女子41)
4年(男子34・女子32) 5年(男子37・女子45) 6年(男子32・女子44)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

